



第 692 回 日本小児科学会東京都地方会講話会 プログラム

※講話会プログラムの郵送はいたしませんので、各自ダウンロードいただきますようお願いいたします。

日 時： 2023年9月9日（土）午後2時00分

来場開催会場： アットビジネスセンター八重洲 501 号室

ライブ配信 URL：

<https://nihon-u-ac-jp.zoom.us/j/84069244381?pwd=ZENzbHNLeGZodHJmei96NTNncTJIIdz09>



ミーティング ID：840 6924 4381 パスコード：464298

参加方法	参加費	教育講演受講単位及び 学術集会参加単位について	備 考
来場参加	1,000 円	小児科領域講習 1 単位（iii 貼付用） 学術集会参加単位（iv-B 貼付用）	* 単位を取得するためには教育講演全ての聴講が必要（60 分）
WEB参加	無 料	単位配布のご用意はございません。	* WEBにてご視聴いただく場合、聴講後に視聴者ログ、視聴時間などの情報共有をいただきますことをご了解お願いいたします。



【会場アクセス】

■ JR 東京駅（八重洲口）より徒歩約 10 分

■ 日比谷線 八丁堀駅より徒歩 2 分

※日比谷線八丁堀駅（A5 出口）

アットビジネスセンター八重洲 501 号室

東京都中央区八丁堀 1-9-8 八重洲通ハタビル 5・6 階

※建物の外観：ガラスカーテンウォール

※看板表記：ABC conference room

【東京都地方会】

会 長：森岡一朗（日本大学医学部小児科主任教授）

主幹校：日本大学医学部小児科 担当：岡橋 彩

連絡先：jpstokyo-office@umin.ac.jp

※講話会中の緊急のご連絡は会場 03-6627-2151 まで

東京都地方会 HP：<https://plaza.umin.ac.jp/jpstokyo/>



第 692 回日本小児科学会東京都地方会講話会プログラム

(1 題 6 分、指定発言 5 分、追加討論 3 分以内厳守のこと)

〈プログラム係 東京慈恵会医科大学 伊藤 伶司〉

一般演題 (1) 14:00 - 14:30 座長 熊澤 健介 (東京慈恵会医科大学附属病院小児科)

1) 劇症 1 型糖尿病性ケトアシドーシスの妊婦から出生した新生児例

○井神 健太^{1,2)}、熊坂 栄¹⁾、岩田 はる香¹⁾、猪狩 直之¹⁾、島 義雄³⁾、清水 俊明²⁾

(¹⁾ 東京かつしか赤十字母子医療センター、²⁾ 順天堂大学小児科、³⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院新生児科)

日齢 0 新生児。在胎 36 週 5 日、胎児機能不全に対する緊急帝王切開で出生した。Apgar スコア 1 分値 8 点 / 5 分値 8 点だったが、臍帯血 pH 6.92 だったため精査・加療目的に当院へ新生児搬送された。分娩後、母は劇症 1 型糖尿病性ケトアシドーシスと診断された。児はアシドーシス、低血糖、高カリウム血症、低カルシウム血症、低マグネシウム血症を呈し、治療介入を要した。日齢 4 までに検査所見はいずれも正常化した。

2) タナトフォリック骨異形成症例の長期管理における Bio-Psycho-Social アプローチ

○二木 良平、島袋 林秀、益田 博司、中尾 寛、堀川 美和子、余谷 暢之、窪田 満

(国立成育医療研究センター総合診療部)

タナトフォリック骨異形成症 (以下、TD) は四肢骨の短縮による低身長や肋骨の短縮による呼吸障害を来す重症の先天性骨系統疾患であり、本邦の患者数は 100 人未満とされている。TD は出生後早期に呼吸障害で死亡することが多かったが、近年では呼吸管理の発達により長期生存も可能となっている。今後、長期生存例が増えていく中で、当院で現在 8 歳まで生存している TD 1 型の症例における Bio-Psycho-Social モデルを提示する。

3) 生後早期の不随意運動から診断された SCN8A 関連てんかん性運動障害性脳症の 1 例

○蜂須 康亮、池野 充、武藤 大和、山田 啓迪、幾瀬 圭、菅沼 広樹、久田 研、清水 俊明

(順天堂大学小児科)

日齢 1 の新生児。胎動減少のため、在胎 37 週に帝王切開で出生した。日齢 1 に横行結腸の穿孔で人工肛門造設術を受けた。術後 2 週頃から四肢の振戦がみられ、驚愕病や新生児発作の鑑別を要した。網羅的遺伝子解析で SCN8A 遺伝子に病的バリエントを認め診断した。遺伝子研究の進歩によりてんかん性運動障害性脳症の疾患概念が構築されつつある。その一つである、SCN8A 関連てんかん性脳症を病態と共に報告する。

一般演題 (2) 14:30 - 14:50 座長 梅田 千里 (愛育病院小児科)

4) 学校検尿を契機に MODY12 の診断に至り内服加療に変更した小児糖尿病の 1 例

○郷古 康愛、寺田 啓輝、田邊 聡美、峯 佑介、鈴木 潤一、森岡 一郎

(日本大学医学部小児科)

14 歳男子。学校検尿で尿糖陽性。糖尿病の疑いで当院を紹介された。非肥満であり、1 型糖尿病を疑ったが自己抗体陰性であり、糖尿病の家族歴が濃厚であることから若年発症成人型糖尿病 (MODY) を疑った。インスリン頻回注射療法で治療を開始した。遺伝子学的検査で ABCC8 遺伝子に c.2263C>T の変異を同定し、MODY12 と診断した。SU 薬単剤での加療へ切り替えても血糖コントロールが良好であり、遺伝子検査の有用性を認識した症例であったため報告する。

5) 腹痛精査を契機にネフローゼ症候群と診断した一例

○鶴井 萌子、堤 範音、山本 萌、南 早織、渡邊 駿、山田 ひかり、西亦 繁雄、山中 岳

(東京医科大学病院小児科思春期科)

7歳男児。受診3か月前から悪心、上腹部痛などの消化器症状を認めていた。食欲低下もあり、消化器疾患の疑いとして当院を紹介された。上部内視鏡検査施行目的に入院したが、入院時身体所見および血液・尿検査結果からネフローゼ症候群の診断となった。腹痛をきたす疾患の鑑別として、本症例のように消化器疾患以外の可能性を念頭においた上で全身診察を行う必要がある。

一般演題 (3) 14:50 - 15:20 座長 馬場 俊輔 (東京慈恵会医科大学附属病院小児科)

6) 経皮的肺動脈形成術により新生児期の外科手術を回避できた Fallot 四徴症の1例

○藤村 訓子、神野 太郎、丸山 篤志、湯浅 絵理佳、住友 直文、小柳 喬幸、古道 一樹、
鳴海 覚志、山岸 敬幸

(慶應義塾大学小児科)

2か月の乳児。在胎38週、2670gで出生し Fallot 四徴症と診断された。高度な肺動脈弁狭窄を認め、動脈管維持のためプロスタグランジン E₁ を投与した。右室流出路狭窄は軽度だったため、日齢15に経皮的肺動脈弁形成術 (PTPV) を行い動脈管依存から離脱した。月齢2まで低酸素血症の進行はなく経過している。肺動脈狭窄の主体が弁性である Fallot 四徴症では、新生児期の PTPV は早期体肺短絡手術を回避する治療となりうる。

7) 高血圧を契機に単純型大動脈縮窄症の診断に至った10歳児

○東條 真有、中村 虹輝、金子 千夏、山口 洋平、石井 卓、細川 奨、森尾 友宏

(東京医科歯科大学小児科)

10歳男児。7か月健診と小学校1年の学校健診でそれぞれ心雑音を指摘され、近医で三尖弁閉鎖不全症と診断された。収縮期血圧が120 mmHg と高かったが精査されなかった。10歳時に収縮期170mmHgの高血圧を主訴に当院を紹介された。造影CT検査で大動脈弓峡部遠位の高度狭窄を認め単純型大動脈縮窄症と診断し、大動脈弓修復術を施行した。小児高血圧では大動脈縮窄症を含めた二次性高血圧の精査をすることが重要である。

8) COVID-19の発熱が遷延し冠動脈拡張を契機に不全型川崎病と診断した1例

○酒井 伶奈^{1,2)}、益田 博司²⁾、小森園 梨奈²⁾、中村 知夫²⁾、窪田 満²⁾、石黒 精¹⁾

(¹⁾ 国立成育医療研究センター 教育研修センター、²⁾ 同 総合診療部)

3か月の乳児。発熱と下痢を認め SARS-CoV-2 PCR 検査陽性であった。以降も症状が遷延し、第8病日に経口摂取不良で入院した。末梢循環不全およびCRP高値(11.9 mg/dL)から二次的な菌血症を疑い抗菌薬を投与した。第14病日から解熱し、足趾の落屑を認めた。第30病日に行った心臓超音波検査で左冠動脈主幹部に小瘤(2.4mm Z: 2.9)を認め、不全型川崎病と診断した。川崎病と SARS-CoV-2 との因果関係は不明だが、MIS-C との鑑別も含め、診断アプローチに関して考察する。

* * 休 憩 15:20 - 15:30 * *

感染症だより 15:30 – 15:50 (講演:15分 + 質疑応答:5分)

講師 砂川 富正 (国立感染症研究所実地疫学研究センター)

共催セミナー 15:50 – 16:30 (講演:40分)

「ジェネラリストとして診たい子どもの「起きられない」

座長 石井 和嘉子 (日本大学医学部小児科学系小児科学分野)

講師 呉 宗憲 (東京医科大学小児科・思春期科学分野)

子どもは葛藤や躓きが身体症状として現れやすく、小児科医のもとには様々な課題を抱えた子どもが受診する。「起きられない」を診療する際、Bio-Psycho-Socialの連動性の理解のもとに対応することが重要である。一方で正しい生物学的知識と治療は、フェーズによっては背中を押す効果が期待できる。ジェネラリストである小児科医として知っておきたい子どもの眠りに関する知識を整理し、皆様と共に学びを得たい。

共催：ノーベルファーマ株式会社

* * 休 憩 16:30 – 16:40 * *

教育講演 16:40 – 17:45 (講演:60分 + 質疑応答:5分) 小児科領域講習 1単位

「育児ビッグデータ解析からわかったこと」

座長 宮川 美知子 (石川医院)

講師 鳴海 覚志 (慶應義塾大学医学部小児科)

育児に関する様々な情報を記録する媒体として、以前から育児手帳が用いられてきた。現在ではスマホでの記録が可能である。我々はスマホアプリ「パパッと育児@赤ちゃん手帳」に蓄積されたデータの解析を、アプリを開発・運営する株式会社ファーストアセントとともに進めている。本講演では、育児ビッグデータ解析を通じて明らかとなった知見を紹介する。

◆ 会員の皆様へ事務局より重要なお知らせ ◆

【2023 年度総会議事録について】

2023 年度総会議事録を東京都地方会ホームページの講話会プログラム（会員専用）バックナンバー内に掲載しています。概要は下記のとおりです。

- * 次期会長 水野克己先生（昭和大学小児科）
- * 会場費値上げ 500 円 → 1,000 円（2023 年度より）
- * 年会費値上げ 6,000 円 → 8,000 円（2024 年度より）
- * 第 48 回東日本小児科学会 日 時：2023 年 11 月 23 日（木、祝）
会 場：文京学院大学本郷キャンパス仁愛ホール
会 長：伊藤保彦先生（日本医科大学付属病院小児科）
- * こどもの健康週間 2022 年度で参加終了（パンフレット冊子作成終了）
- * 小児診療初期対応（JPLS）2022 年度より導入

【年会費免除申請について】

学部学生（大学院生は除く）および、初期臨床研修医は年会費および講話会会場費は免除とします。学部学生は学生証、初期臨床研修医は職員証（写）と年会費免除申請書（東京都地方会ホームページよりダウンロード可）を事務局に申請してください。

【2023 年度年会費納入のお願い】

2023 年度年会費を 2024 年 3 月末日までに【会員マイページ】より納入手続きいただきますようお願いいたします。

※ 2022 年度以前未納の場合も【会員マイページ】よりお手続きお願いいたします。

3 年間未納の場合、自動退会となりますのでご注意ください。

会員登録事項変更等についてもマイページより各自お手続きお願いいたします。

【東京都地方会名誉会員のご推薦について】

東京都地方会では名誉会員の推薦を随時募集しています。詳しくは東京都地方会ホームページにてご確認お願いいたします。

ご不明な点がございましたら事務局までご連絡をお願いいたします。

- 【次回以降開催予定】 2023 年 10 月 14 日（土） 来場（アットビジネスセンター八重洲）＋ライブ配信
2023 年 12 月 9 日（土） 来場（アットビジネスセンター八重洲）＋ライブ配信
2024 年 1 月 13 日（土） 来場（アットビジネスセンター八重洲）＋ライブ配信

【担当医局】 日本大学医学部小児科

連絡 ☒：jpstokyo-office@umin.ac.jp

※講話会中は会場 03-6627-2151 へご連絡ください。

【東京都地方会 HP】

<https://plaza.umin.ac.jp/jpstokyo/>



演題募集中！

登録方法などは詳しくは東京都地方会ホームページをご確認ください。